

医学研究センター

フェロシップ部門

丸山 敬
(部門長)

1. 部門概観

<部門員構成>

- 部門長 丸山 敬： 薬理学（教授）
副部門長 森 茂久： 医学教育センター, 総合医療センター血液内科（兼担）, 大学病院血液内科（兼担）（教授）
部門員 別所正美： 学長／医学部長
齋藤一之： 法医学（教授）
片桐岳信： ゲノム医学研究センター病態生理部門（教授）
名越澄子： 消化器内科・肝臓内科（教授）
木村文字： 国際医療センター画像診断科（教授）

<活動目的>

研究科委員会や医学教育センター大学院教育部門との連携のもとに、常勤教員以外の研究者（非常勤研究者）の経済的・身分的支援を目的とする。

<業務>

1. 私費外国人留学生等奨学生の選考
2. 非常勤研究員の審査・登録
3. 非常勤研究員の身分証明
4. 専攻生授業料免除の審査
5. 各種非常勤研究員の身分的位置づけおよびその他の支援体制の確立
6. 上記と関連して規定集（専攻生、協力研究員、特別協力研究員、特任研究員）の確認

2. 平成22年～23年の活動

- 庶務課の尽力により、奨学金募集並びに支給はほとんど問題なく遂行されている。今後とも不測の事態には教員と事務部門が協力して対応することを確認した。

<私費外国人留学生等奨学生の選考について>

- 平成23年3月の申請者は日本人1名であった。翌月（平成23年4月）より大学院2年生に進級する。様々な議論があったが、助成に値する研究能力を備えていると評価した。
- 平成22年9月に採用されたトルコ共和国よりの留学生1名は福島原発事故を理由として帰国することになった。そのため平成23年6月をもって支給を辞退することを了承した。
- 平成23年9月の募集には申請者がいなかった。

<日本人研究者の補助について>

- 本フェロシップは基本的には外国人研究者を対象としている。日本人枠については、外国人申請者4名以上がすべて初めての受給申請の場合は、外国人を優先するが、受給歴のある外国人よりも1人を限度として、研究歴や研究能力が相応の日本人（博士課程最終学年か博士研究員を想定）を選別可能とした。日本人の選考は、以下の順で優先することにした。この選考基準は将来的にも基準となると判断した。
(1) 学位取得者、受給開始日までに取得予定者とする。（ポストドクを想定）

- (2) 大学院最終学年在籍者を優先する。(学振の DC2 を想定)
- (3) 本学の無給常勤研究員, 大学院生, 研究生。(研究歴/能力を勘案)
- (4) 同じ条件の場合は年長者を優先する。(社会的必要性を考慮)

<平成 24 年度以降の制度について>

- 全学的な問題であり, 種々の状況を勘案しつつ, 慎重に検討する。保健医療学部大学院の創設に伴い, 大学院生の研究支援についても議論・提案した。
- 鈴木正彦保健医療学部教授にも参加していただいて議論した。
- 初期研修医学博士コース(仮称)として大学院授業料相当額を支給して研修医の大学院研究を支援することを提案した。
- 研修医以外の修士課程および博士課程大学院生にも数万円の奨学金を支給し, 卒業後研究職に就任する場合には免除することを提案した。
- 博士研究員には研究費を提供することを提案した。

3. 現状と今後の課題の総括

<新しい研究支援制度について>

- 平成 23 年度の議論を踏まえて制度整備を行っていく。

<私費外国人留学生等奨学生の名称について>

- 外国人に限定されないことから, 名称を検討していく。

(文責 丸山)